



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」95号
Issue Date	1996-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66426
Type	journal
File Information	yuin95.pdf





檉蔭

Yuin 北海道大学附属図書館報

目次

○情報と文明 北海道大学総長 丹保憲仁…………… 1	○平成7年度特別図書購入費で 購入した資料…………… 24
○新入生のための 北大図書館入門講座…………… 6	○アメリカ合衆国東部の図書館を訪ねて 菅原英一…………… 25
○新図書館情報サービス(3)…………… 14	○北大図書館研修記 函館工業高等専門学校 庶務課図書係 福村美保子…………… 28
○資料紹介 大型コレクション『ナチズム研究』について 教育学部教授 小出達夫…………… 20	○研修・講習会等…………… 30
○教官著作寄贈図書…………… 23	○会議…………… 30

情報と文明

北海道大学総長

丹 保 憲 仁

西暦1800年からほぼ200年で地球の人口は20倍にもなった。これは物理学的世界観に根ざして発達した近代科学技術の大きな成果である。大増殖の初期は人類の発展と考えられたけれども、その最後になって人間ははびこりすぎた生物種と自ら考えざるを得ないようになってきた。近代文明に基づく人間の活動が地球の大きさに収まりきれなくなったわけである。地球環境の時代の到来である。



近代科学技術と人間

(human beings, modern science and technology)

全ての自然現象を、一定の手順によれば一定の結論に達するという自然科学の法則に抽象し、その幾つかを組み合わせると人類は科学技術文明を創ってきた。そのために、さまざまな事

柄の手順を体系化された知識、すなわち科学技術の法則として教える学校教育が文明の中核としてまず出現した。一定の手順によれば一定の結論に達するという自然科学的な法則のたて方が社会集団の挙動の理解にまで広く拡張され、社会科学なる手順論が生まれた。近代文明とい

われるものである。

人間は生物の一種であり、その生物学的進化の度合いは遺伝子の変化を基礎とした生体情報によるものを大きく踏み出すことはできない。その一方で人間が創り出した知識といわれる外部情報は図書館に始まり、近年は電子情報として個人の進化をはるかに凌駕する広がりと速度で進み、集積の度を加えている。個人は生体情報と人一代で習得した知識を使えるに過ぎない。そのため人間が個人で持っている情報と人間集団が持っている全知識（文明）の隔たりが今ほど大きかったことは歴史上ない。

地球環境と近代科学技術文明 (global environment and modern civilization)

地球環境の時代を幾つかの言い方で表現できる。第一は、人が地球にあふれて生物としての生存に不可欠な水、大気、土等の正常な状態の保全を、人類が今持っている知識とエネルギーでは保ち難くなり、食料不足もそう遠くない将来にあるという恐れである。第二は、その持っている知識「近代科学技術」は場所と時間を限定した、ある整えられた条件の下で使えば極めて有効であるのに、それら諸活動をそれぞれ限定した時空間で別個に行うような余裕を地球上に持てなくなったことである。近代文明の有効性が萎えてきたということである。幾つものことが時と場所を同じくして発生するけれども、我々が今持っている科学技術はそれを処理し得るほど進んでいない。

近代科学技術と生物 (living creatures and modern science and technology)

人間の持っている科学技術は物理学で6桁の精度を、化学で2桁の精度をほぼ間違いなく出すことができる。しかしながら、生物に関わる現象は1桁の精度がやっとである。まして、生物は個体で単独には存在しない。群集としての生物活動の諸評価は1桁の精度すら怪しい。地

球上では全ての事柄は生物と絡み合って存在している。従って、地球環境問題は、極めて高い精度を持って扱うことの出来る物理化学的な現象と、今のところ1桁レベルの精度しかない生物現象の重ね合わせで存在している。空間を分離できない場合には、高精度の物理化学現象を複雑な生物学的現象に重ねなければならず、その合成は論理的に非常に難しい。近代科学技術は精度の異なる諸現象を上手に合成する方法をまだ持っていない。

体外情報 (civilization)

これから21世紀を生きようとする時に、遺伝子レベルの情報をはるかに超えた生体外情報が電子工学的な手段により極端に発達した形で集積されているように見えながらも、それを人の挙動にまで戻して、人の生活をより安らかにする方向で十分な働きをするレベルにまでは成熟していないことを考えておかねばならない。我々はまだ中途半端な文明の状態にいることに気づく。外部情報による知識を人の知恵（生体情報プラス一代限りの記憶）の補強に使って適切に人々が挙動することができるような、成熟したマン・マシーン・システムが創れるか否かに人類の将来はかかっている。

近代文明とその先 (postmodern society)

地上の動物の総重量の1/4をも占めるに至った人間が、近代文明という巨大であるけれどもいささか粗放単純な行動規範の上で生き続けるとしたら、地球は、というより人類は余り遠くない将来、その存在を危うくするに違いない。なにがどうなっているかわからないことから逃げようとする時、いささか消極的な方向での一つの選択は、昔の生活に戻ることである。せいぜいが農耕社会に戻るまでが関の山かとも思うが、先祖帰りがその選択肢の一つである。近代文明（基本的にOpen system）に頼らない局所循環型のClosed systemによれば、長い江戸時

代で証明されたように、この日本では約3,000~4,000万人の人間が生存できるに過ぎない。ヨーロッパ中世の終わろうとする15世紀、その人口の1/4がペスト等の疫病で失われた。閉じた中世農耕社会の成立限界である。

近代社会は、化石エネルギーを解放して資源収集空間を長距離大量輸送技術によって拡大し、比較的単純な生産技術の集中化によって産業中心の活動を高めた。20世紀の後半になって、近代社会の中心部では廃棄物の集積による公害、周辺部では資源と技術不足による貧困からくる南北問題にさいなまれ、近代文明社会の指数関数的拡大にブレーキがかかった。これを加速したのが分子レベルの物質合成技術の発達である。合成物質が人類にもたらした便益は計り知れない物があるが、其の一方でそれらによる環境の汚染は中心部から周辺部へ広がって、近代文明の存立を難しくした。

地球環境問題 (global environmental issues)

近代文明の特徴は、化石エネルギーを用いて高速大量輸送と大規模生産を単品についてそれぞれ別個の空間で能率よく行うことであった。しかしながら、それらの製品を使用する生活空間は生産空間のように相互に独立し、かつ生物との密接な結合を切ることのできる場ではない。人間やその他さまざまな生物の存在する場でさまざまな製品と、そのある時間経過後の存在である廃棄物が混在する。製品と廃棄物は、中に人間や生物を介在させた流れの中に時間差を持って生じた現象である。このような事柄をどのように統合的にとらえるかが環境問題である。環境問題を Problem (ろくでもないこと) としてとらえるか、Issues (当然起こり得ること) としてとらえるかが、公害が問題になった1970年代と文明の根本的な問題として扱うことになった1990年代との違いである。

生命科学 (biological science)

地球環境の時代、生物である人間の進化をはるかに超えた速度で外部情報である文明を集積し続け、それを科学体系として持った人間は今、生命そのものである遺伝子までを外部情報によって操作できる能力を持つに至った。生物が生物を超えて生物を操作するという大きな曲がり角についに近代文明は到達した。今までと同じような比較的単純な科学的手法で生物、さらには特定の生物である人間をも対象として生物学の物理化学化が始まろうとしている。成熟しきらない粗い近代科学とその末端部分の生物本体への接触を先端的と単にいうことにははばかりが多い。

先端技術と倫理性 (new technology and ethics)

さまざまな先端科学がある。分野によってその行く先が明らかに切られている先端科学技術と、その行き先が全く予想もつかない真の意味での先端科学の二つがある。学校教育でいとも簡単に科学技術をマスターできるなどと思うことは思い上がりである。人間の無知の証明に他ならない。科学技術というものはその成り立ちからして悪魔的である。従って、それを使うときの倫理性が学ぶべき最大のものである。学問研究を進める際には、為すべき人の能力の大きさを特には問わない。努力の大小もさして大きなことではないかも知れない。これらはちっぽけな時間の中での尺取虫の歩みの僅かな差でしかないからである。一番恐ろしいのは、その時に自分の進んでいる向きが正しいかどうかがなかなかわからないことである。また、時には全くわからないことである。そのとき、ただ一つの道しるべとなり得るのは、そのことが人を生かし、自分の良心を喜ばせるものであるかどうかということである。短くいえば、倫理性に適うかどうかである。それとても、どの範囲で問題を考えるかによって理解が異なるという大変に

困難なことである。しかしながら、なにを生業として人生を過ごしていくのであれ、仮にでもより高いものを求めて新しい道を開いていくことが人生の目的でありうるならば、人としての倫理をしっかりと持ち続けることができるであろう。逆にいえば、そのためにこそ科学を学び、技術を学ぶ動機が真らしきものとしてありうるように思われる。

地球環境の時代

(the age of global environment)

地球環境の時代は、近代文明に依る人間活動が地球有限の境界条件にぶつかって、その基本構造の転換を考えねばならぬところに来たことを意味する。しかしながら、人類の持つ知的遺産として近代文明は圧倒的な大きさと広がりを持っている。そして200年近くにわたり成功を実証してきた。その故に今日の閉塞が始まった訳である。従って、この転換は容易なことではない。空間とエネルギーの制約の下で、僅かな手がかりをもとに新しい文明を創ることを今始めなければならない。土の中にまだ眠っている先端の芽を掘ることから若い人は初めてほしい。滅び行く近代文明を唯なぞるだけの勉強では何も生まれてこない。自分の夢を、極く少数の絵の具で描かねばならぬ画家の状況が今の先端を行くべき人々の宿命である。

図書館と情報ネットワーク

(library and information network)

人が行動するときに頼ることのできる情報は、知恵と知識である。これらの情報を人が得るときの道筋は、知恵にあっては親から受け継いだ遺伝的情報と一代の学習によって得た物であり、其れに対して知識は学習によって自分の脳のメモリーに取り込んだ物に加えて使い方を学びえた外部情報の総てと言うことになる。文明という名で呼ばれる生体外の情報は膨大な歴史的・分野的広がりを持っている。歴史的に図書館と言われる物がその最大のソースであっ

た。

文明と文化と言う似た言葉がある。「文化とは人間の生活の仕方のうち、学習によって其の社会から修得した一切を言うが、狭義には文化と文明を価値の体系と技術の体系に分け、文化は規範的・非累積的・人格的・主観的であるのに対して、文明は技術的・累積的・客観的であるとしている。しかしながら価値の体系である文化は技術の体系である文明と無関係には存在し得ない。」(平凡社百科事典；石田英一郎) 私も日頃から文明と言う言葉を殆ど石田の説明と同様に使っている。

文明は人間の意識、制度、倫理等の精神的なものを支える物質的基盤であり環境の状態に応じて累積的に発展・展開していくものであろう。個人が学習によって駆使しうる累積された情報の種類と其の情報を実用する事の出来る速度は限られており、過去には定型的な学校教育と図書館などに蓄積された情報の適時使用で問題を処理してきた。従って其の運用しうる領域の大きさと処理速度は限られており、どうしてもある大きさに分野を縦割りの的に区切って、上述の方法で処理可能な専門分野の範囲を超えることが出来なかった。近代文明の限界もそこにある。

しかしながら、地球上の空間を総ての活動が分け取ってしまった結果、環境制約の厳しい現代のような時代になり、この閉塞を超えて活動を維持発展させて行こうとすれば、複数の活動の折り合いを同一の空間で付けねばならない。共生(symbiosis)が環境の時代のキーワードとなる理由である。この地球上の様々な活動を時間と空間の折り合いを付けて最少のエネルギーで運用しようとするわけである。今人類が持っているのは、今まさに閉塞の際にある近代文明を造り上げて来た、近代科学の基礎知識と其の合成の基本技術だけである。様々な空間の自然・社会環境の基礎情報(データベース)に

応じて、其れらをもう少し上手に使い、しかるべく組み合わせ、再生可能な資源の利用範囲で人々が元気を失わない程度の緩やかな進歩(sustainable growthの持つ意味)を期待しようと言うわけである。そうして、その間に近代を超えた基礎科学のブレイクスルーを期待しようとするのが、真の意味での先端科学である。

図書館は近代まで情報集積の中心機構であった。これからも其の役目は変わらない。しかしながら情報を利用するときの使用者側の要求が大きく変わり始めている。其の特徴は、①極めて多くの情報を一度に必要としており、所定の時間で必要な情報を処理することが要求されている。②精密な情報が様々な種類の事柄と様々な空間・地域について必要であり、それらは、個々の一次情報の製作者によるのが最も良い。分散型社会の基本動作である。従って③地域・時間を隔てて基礎とするデータベースに容易にアクセス出来る様な情報システムを作らねば

ならない。④情報システムは各部分がお互いが支え合って全体を構成する事になるから、レベルの低い情報を持っていたとしても評価されない。お互いに支え合う為には、情報システムは共通性・互換性を持っていなければならない。

従って、使うための図書館の備えているべき条件は、環境の時代に入って一段と高次化する事が要求される。コンピュータ・ネットワークが幸いにこの時代の鍵を担う技術として文明の中に颯爽と登場してきた。図書館が後近代にも人類の文化・文明の活動の中から、進化を続ける文明の重要な要素を選び出して保存し、事に処していくための実効ある足場として提供し、遅滞無く人類の活動を駆動させる力とするためには、情報システムのネットワーク化と特徴ある一次資料のデータベース化が緊要であり、使用者の教育の中心となることもまた其の期待される役割である。

新入生のための 北大図書館入門講座

開講式

新入生の皆さん、ようこそ北大へ！

そして北大図書館へもようこそ！

北大の図書館は、あなたの学生生活がより楽しく充実するよう、お手伝いしたいと思っています。

さあ、どうぞ一度、図書館の扉を開いてみてください。

きっとあなたのやりたいことが見つかるでしょう。

もちろん新入生じゃない方も、大歓迎です。

第1講 図書館って、誰でも使えるの？

北大の図書館・図書室は、北大のすべてのひとのためのサービス・システムです。

ただし、どの図書館・図書室を利用するときも、学生証または利用証を忘れずに。

学部学生
大学院学生 } 学生証が図書利用証になります。

教 官
教官以外の職員 } 所属の学部で利用証を発行しています。

研 究 生
聴 講 生
科目等履修生 } 利用証は附属図書館(本館)で発行しています。身分証明証をもって3階カウンターへ。

さあ、学生証(利用証)を持ったら、お近くの図書館・図書室に行ってみましょう！

第2講 図書館って、どこにあるの？

北大の図書館グループの中心となり、専門的な資料を多く所蔵する，附属図書館（本館）。

おもに低学年生の学習・教養のために，学習図書や教養書をそろえた北分館。

そして，各学部の図書室。

どれもが北大の「図書館」です。

それぞれの位置については，次ページの「CAMPUS MAP」をご覧ください。

第3講 図書館って、いつ開いているの？

ほとんどの学部の図書室の開室時間は，月～金 9：00～17：00 となっています。

ただし，次の図書館・図書室は17：00 を過ぎても開いています。

附属図書館（本館） 平 日 9：00～20：00

土曜日 9：00～16：30

附属図書館（北分館） 9：00～20：00

医学部図書館 9：00～19：00

（冬期 9：00～18：00）

これらの図書館でも，春・夏・冬の休業期間には開館時間が変更されることがありますのでご注意ください。

また，開館（開室）時間の変更や臨時休館（休室）のお知らせは，HINES（学内 LAN）や掲示によってお知らせします。

8

第4講 図書館って、どんなサービスしてくれるの？

北大図書館では、次のようなサービスが受けられます。

貸出・閲覧サービス

本や雑誌を貸し出しています。

貸出の冊数や期間は図書館・図書室ごとに決まっています。

その場で本を読むことのできる図書館・図書室もあります。

レファレンス・サービス

図書館の使い方、文献の探し方、資料の使い方、データベースの検索法、資料のありかの確認……
図書館でわからないことはなんでも職員にお聞きください。

また、特定の事項やデータについての調査・研究のお手伝いもします。

・CD-ROM 検索サービス

雑誌の文献目録や、新聞記事のデータベースなどのCD-ROMを自由に使うことができます。

・オンライン検索サービス

外部データベースをオンラインで検索できます。

・総合情報ターミナルコーナー（附属図書館本館・北分館）

パソコンを使い、学内外の学術情報を検索するためのターミナルコーナーです。

文献複写サービス

図書館所蔵の文献をコピーすることができます。

相互利用サービス

北大に求める資料がないとき、他の図書館の資料を利用できることがあります。

・学外の資料の複写

学内にない文献のコピーを取り寄せることができます。

・他大学図書館の利用

北大以外の大学を利用したい方に、必要書類を発行しています。

機器・設備の提供

本を読んだり、資料を使って勉強する場所として、図書館を使えます。

また、カセットやビデオのブース、マイクロリーダー、パソコンなどの機器を使うことができます。

この他にも、図書館・図書室ではまだまだたくさんのサービスが提供されています。

百聞は一見に如かず。どうぞ実際に図書館にきてみてください。

第5講 図書館には、どんな本があるの？

図書館では、主に学生と研究者の方を対象に、様々な内容の資料を所蔵しています。

例えば……

学生の学習をサポートするための資料

一般教養書

様々な分野の入門書

専門分野ごとの基本的な図書・雑誌

授業の内容に沿った、学習のための図書

研究者のための研究調査用資料

分野ごとの学術書

学術雑誌

各種研究データ

学術研究のためのコレクション

など……

また、学部の図書館・図書室でも、各分野の学術図書・雑誌を専門に集めています。

ところで、一口に「資料」といっても、そのかたちはさまざま。

次のどれもが図書館の「資料」です。

図書(本)／雑誌／新聞／マイクロフィルム／マイクロフィッシュ／カセットテープ／ビデオテープ／
音楽 CD／CD-ROM ……

もちろん、これらの資料はあなたの必要に応じて、いつでも利用することができます。

話がちょっと難しく聞こえたかも。でも、かたく考えることはありません。

絵本から研究書まで、

文庫本から CD-ROM まで、

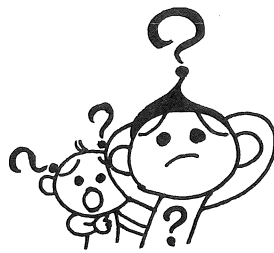
500 年前の本から今日の新聞まで。

— 図書館は、あなたの求める資料を提供します。

第6講 図書館Q&A

……「図書館について、まだわからないことがたくさんある」ですって？

では、次はそんなあなたのための、質問コーナーです……。



Q 図書室においてあるコンピュータは何？

A 蔵書検索用のコンピュータです。これを使うと全学の本や雑誌のデータがすぐにわかるんですよ。詳しい使い方は職員にお尋ねくださいね。



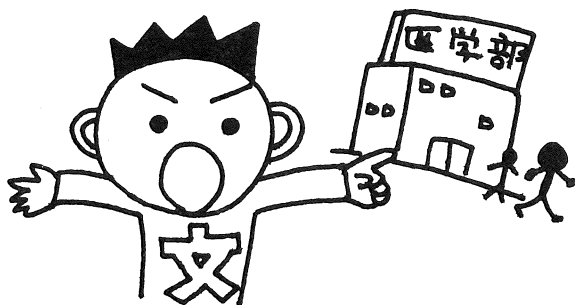
Q 北大には、むずかしい本しかないんでしょう？

A そんなことはありません。例えば附属図書館の本館・分館には、新書や文庫本，ベストセラーの小説や雑誌もたくさんそろっています。また，学部図書室にもあなたの専攻や興味に応じた資料がきっとあるはず。どうぞ一度，のぞいてみて下さい。



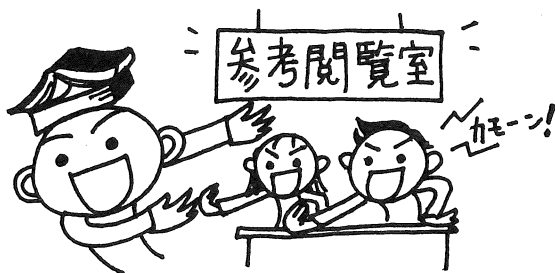
Q 文学部の学生でも，医学部の本は借りられるの？

A もちろんです。北大生ならどの学部の本でも利用できます。学生証を持って直接図書室へおこしてください。



Q 英検のためにヒアリングを勉強したいのですが。

A 例えば附属図書館の本館や分館には、語学演習のためのオーディオ機器がそろっています。また、英会話のテキストやテープを所蔵しているところもありますので、まずはお近くの職員に相談してみてもいいでしょう。



Q 欲しい論文が、北大には無いようなのだけど……

A だいじょうぶ。北大にない文献でも、よその大学などから取り寄せることができます。詳しくは、カウンターにお尋ねください。



Q 「葛飾北斎」について、詳しく調べてみたいんですけど……?

A 附属図書館本館の、「参考閲覧室」に行ってみては。調べものに必要な辞書・事典目録などがそろっています。もちろん、職員が質問・相談に応じてあなたに情報を提供します。



Q 宮崎駿の映画がみたい!

A 分館の「ビデオ視聴室」に行ってみては。ビデオテープやレーザーディスクがそろっており、その場でみることができます。

Q 読みたい本が、図書室にないんですが。

A 他の学部にあることもあります。まず、コンピュータで全学の所蔵を調べてみてください。それでも欲しい本がないようなら……新しい本の「購入希望」を出すテもありますよ。



Q 図書館より、パソコンの方がおもしろい！

A そんなあなたのためにとっておきの情報。この「楡蔭」が、インターネットでも読めます。

北大図書館WWWサーバ (<http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp>) にアクセスしてみてください。

Q 図書館について、まだまだわからないことがたくさんあるんです！

A そういう時こそ、職員にお尋ねください。
図書館でお待ちしています！



閉講式

いかがでしたか？「図書館入門講座」は、ひとまずこれで終了です。

さあ、次からは実践編、ぜひ図書館に出かけてみてください。

もちろん、わからないことがあったときには、気軽に職員に声をかけてくださいね。

図書館はいつでもあなたをお待ちしています。

(文 佐藤依理子)

(イラスト 作山 綾)

新図書館情報サービス(3) 北大蔵書のオンライン検索

その1 — 閲覧室 OPAC

コンピュータによる蔵書検索を「OPAC」
(Online Public Access Catalog) と呼んでいます。

北大には約 300 万冊の蔵書があり、現在その
約 70%に相当する書誌所在情報をオンライン
で検索できます。

OPAC は、図書館(室)の専用端末で利用で
きる「閲覧室 OPAC」と、WWW ブラウザを搭
載した端末で利用できる「WWW 版 OPAC」、
パソコン通信のように利用できる「コマンド型
OPAC」の 3 種類が用意されています。

今回は、「閲覧室 OPAC」の使い方について基

本的なことを紹介します。

1 検索の基本的な流れ

図 1 は、閲覧室 OPAC の最初の画面です。

キーボードでもマウスでも操作できます。検
索の手順は以下のようになります。

- 1) 検索語を入力する(1 語)。→図 2
- 2) ヒットしたものの検索結果一覧を表示させ
る。→図 4
- 3) 一覧の中から特定の資料の書誌所在情報を
見る。→図 5

図 1 閲覧室 OPAC 初期画面

検索実行 f:1	結果表示 f:2	クリア f:3	終了 f:5	演算検索 f:6	English f:9	説明 HELP
-------------	-------------	------------	-----------	-------------	----------------	------------

資料種別	すべて	和 書	洋 書	文字表
	図 書	和図書	洋図書	カナ 英数 キリル
	雑 誌	和雑誌	洋雑誌	ア イ ウ エ オ ァ ィ ゥ ェ オ
検索語入力欄	検索語種別指定 無指定			カ キ ク ケ コ ガ ギ グ ゲ ゴ
I				サ シ ス セ ソ ザ ジ ズ ゼ ゾ
検索行	検索語	検索語種別	件 数	タ チ ツ テ ト ダ チ ズ デ ド
				ナ ニ ヌ ネ ノ ッ
				ハ ヒ フ ヘ ホ バ ビ ブ ベ ボ
				マ ミ ム メ モ パ ピ プ ペ ポ
				ヤ ユ ヨ ャ ュ ョ
				ラ リ ル レ ロ ワ カ ケ
				ワ キ エ ラ ン ヴ ー 、 ・
				0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 @
				スペース % クリア * + - ()

書名(誌名)、書名中の語、著者名などの検索語で北大の蔵書を検索できます。
 あらかじめ検索対象資料を指定すると、検索が早くなります。
 検索語を入力し、実行をクリックするかリターンキーを押して下さい。
 マウスでも、キーボードでも操作ができます。
 検索語の最後に%を付けると、%のところまで一致している全ての検索語が対象になります。
 日本語資料はなるべくカナで検索してください。

席を立つときは「終了」を押してください。

基本検索モードです。(自動論理積)

● 検索操作の基本的な流れの例 ●

検索例：伊藤整編「日本の文学」が北大のどこにあるか。

① 検索語の入力，ヒット件数の表示

図2 [検索語入力例]

検索語入力欄

ニホンブンガク

○検索語入力欄に書名の読みである“ニホンブンガク”を入力して検索を実行させます。[実行]は、下記の1)－3)のいずれでも可能です。

図3 [検索実行後のヒット件数表示]

検索語入力欄		検索語種別指定	
I		無指定	
検索行	検索語	検索語種別	件数
1	ニホンブンガク	無指定	4

- 1) マウスで[実行 (f・1)] ボタンをクリックする。
- 2) f・1 キーを押す。
- 3) リターンキーを押す。

② 検索結果の一覧（簡略書誌）表示

図4 [簡略書誌一覧] 画面

詳細表示 f・1	検索語入力 f・4	検索終了 f・5	一覧次頁 f・6	一覧前頁 f・7	説明 HELP
簡略書誌一覧					
項番	資料種別	簡略書誌	該当件数：4/4		
1	[シリーズ]	日本の文学。 - 東京：至文堂			
2	[図書]	日本の文学 / 有精堂編集部編。 - 東京：有精堂出版，1987.4。 - 冊；22cm			
3	[図書]	日本の文学 / 伊藤整編。 - 東京：毎日新聞社，1951。 - 4, 384, 8p；19cm。 - (毎日)			
4	[雑誌]	日本の文学 = Studies in Japanese literature / 有精堂編集部。 - 1集 (1992) = 通4			

○ [検索結果一覧 (f・2)] を実行するか，リターンキーを押すと，ヒットしたものの簡略書誌リストが一覧できます。

3行目に探していたものがありました (左例)。

③ 単行書誌所在情報の表示

図5 [単行書誌詳細表示] 画面

集合書誌表示 f・1	前面へ戻る f・4	検索終了 f・5	次の書誌 f・6	前の書誌 f・7	一覧次頁 f・8	一覧前頁 f・9	説明 HELP
単行書誌詳細表示							
書誌情報				書誌ID：20325088			
王朝の文学 / 岡一男, 松尾聡著. - 東京 : 至文堂, 1966.6. - 327p ; 20cm. - (日本の文学 : 第2)							
PID:10030092	NCID:BN04630469	NBN:	GMD:	SMD:			
ISBN:	ISSN:	CNTRY:ja	YEAR:1966-				
NDLCN:	LCCN:	ULPN:					
TYTL:jpn	TYTL:jpn	ORGL:	REPRO:				
PSTAT:	FREQ:	REGL:	TYPE:				
所在情報一覧				該当件数：1/1			
項番	巻冊次	請求記号	所在	状態	資料番号		
1		810.9/11P	本館・開架閲覧室		0016340496		

○詳しい情報を見たいものの行をマウスでクリックして指定し，[詳細表示 (f・1)] を実行すると，詳細な書誌，所在場所，請求記号，状態 (貸出し中かどうか) 等の情報が表示されます。

2 いろいろな検索パターン

2.1 書名・誌名（タイトル）が正確にわかっているとき。

まずタイトルで検索してください。

即座に結果が出てきます。

“カゼトトモニサリヌ”

“風と共に去りぬ”

“GONE WITH THE WIND”

* 翻訳書は原書名でも検索できます。

2.2 タイトルや著者名を少し知っているとき。

- 1) タイトル中の語や著者等名で検索を重ねて絞り込む。(図6)

図6 [自動論理積(後述)の例]

検索行	検索語	検索語種別	件数
1	おかしな	無指定	3,804
2	池	無指定	57
3	お	無指定	16

- 2) コード番号で検索することもできます。

[検索語種別指定] のボタン(初期値は[無指定]に設定されている)をクリックし、コードの種類を指定してから検索します。

2.3 タイトル等を特定せずに資料を探すとき。

- 1) タイトル中にありそうな語や著者等名を検索語にして検索してみる。

- 2) 件名で検索する。

検索語種別で[件名]を指定して検索します。

資料データの多くは「件名」=資料の内容を表す語句が付与されています。これで検索するとタイトルにテーマを表す語が含まれていなくてもテーマに沿った資料を探すことができます。洋資料についてはアメリカ議会図書館が、和資料については国会図書館が付与した件名がほとんどです。ただし、特に和資料は件名データがないものもあります。

なお、件名だけの検索ではヒット件数が多くなりますので、何らかの検索語を重ねてヒット件数を絞る必要があります。

検索事例は[演算検索]で紹介します。

- 3) 分類記号で検索する。

検索語種別で[分類]を指定して検索します。

検索語の入力には2つの方法があります。

① 分類番号だけ “320.1”

② 分類表と分類記号 “DC 19: 320.1”

分類記号による検索については、次号で説明します。

- 4) 検索インデックス一覧からの検索

[f・7 検索語一覧] ボタンをクリックするとデータベースのインデックスとその件数を見ることができます。一覧の中から任意の行(インデックス)を指定し検索語とします。

検索語の綴りが不明確なときなどに便利です。

注: この機能は平成8年7月から使えます。

3 検索語の入力の仕方

- 1) 大文字、小文字の区別は不要です。

“JOURNAL” = “journal”

“ッ”, “ャ”, “ュ”, “ョ” = “ツ”, “ヤ”, “ユ”, “ヨ”

- 2) 1回の検索(1検索行)につき1つの検索語を入力してください。「タイトル」も1検索語です。

ただし、洋資料のタイトルは、単語の間はスペースを空けてください。

- 3) 著者等名は“姓△名”の形です。

ただし、書名中の人名は、スペースを挟まず、“姓名”(表記のまま)です。

- 4) インデックスの長さ(最長)

○漢字, カナ, キリル文字, ギリシャ文字は15文字(30バイト)以下です。

○英数は30文字(30バイト)以下です。

○31バイト以降は無視されます。

○語尾を省略するときは、次項[前方一致機能]を使ってください。

- 5) 前方一致機能

検索語の語尾に“%”をつけると、%記号の直前まで一致しているすべての検索語にヒットします。

6) 漢字での検索

キーボードの[日本語]というキーを押すと、ローマ字カナ漢字変換が使えます。漢字形で検索できるものには、以下のものがあります。

- ① タイトルの完全形
- ② 著者等名の完全形(姓スペース名)
- ③ 著者等の姓、及び名
- ④ 出版社

「読み(カナ)」では検索できません。

⑤ 件名

和資料の「件名」にはカナ(読み)が付与されていない書誌データもあります。

漢字形による検索は読み方が不明確なものを検索するときには便利ですが、操作性・確実性から見て、和資料はカナ(読み)で検索することをお勧めします。

7) 演算式検索

基本検索モードではヒット件数が自動的に論理積で絞られますが、任意の演算式を設定することもできます。

基本検索モードで[f・6 演算式検索]をクリックし、「拡張検索モード」に切り替えて行います。

4 基本モード検索の諸設定

閲覧室 OPAC の最初の画面は、ある一定の状態に設定してあります。これを「基本検索モード」と呼んでいます

4.1 すべての資料種別を検索します。

蔵書の資料種別は図1にみるように、の7つに分けられていますが、基本検索モードでは初期値として[すべて]に設定されています。

変更(限定)したいときは、項目の頭の◇の部分をクリックしてください。

4.2 ほぼすべての検索インデックスが検索対象になっています([無指定])。

検索語の種別を指定するときは、初期画面中央の検索語種別指定ボタン[無指定]をクリックしてダイアログボックス(図8)を開き、指定したい項目をクリックしてください。

○印の項目は初期値[無指定]で指定されているものです。検索の対象とするインデックスの種類を限定するときは、それぞれの項目をクリックしてください。

4.3 検索を重ねるたびにヒット件数が自動的に絞りこまれます(「自動論理積」)。

図7 [演算式検索の例]

検索語入力欄		検索語種別指定	
		件 名	
検索行	検索語	検索語種別	件 数
1	おっかいたう	無指定	3,804
2	アオモリ	無指定	65
3	せんぼく	件 名	169
4	(1+2)*3	演算式	8

書名、書名中の語、著編名等に「北海道」または「青森」があり、
内容(件名)が「自然保護」に関する蔵書を検索した例。

図 8 [検索語ダイアログボックス]

検索語種別指定
無指定
○書名・誌名
○著者名
○出版者
分 類
○書名中の語
ISBN
ISSN
全国書誌番号
LCカード番号
○NC書誌ID
○書誌ID
NDLカード番号
○資料番号
変遷ファミリーID
件 名

5 OPAC の情報表示パターン

資料についての情報を「書誌情報」と呼んでいます。北大 OPAC では、蔵書の書誌情報を以下のように分けて扱っています。

雑誌 —— 雑誌誌名等 —— 雑誌書誌
図書 —— シリーズ・全集名等 —— 集合書誌
個々の図書名等 —— 単行書誌

閲覧室 OPAC の初期設定では、上記の区分にかかわらずすべての資料を一度に検索することができますようになっていますが、ヒットしたものの「簡略表示」の段階では、「雑誌」「シリーズ」「図書」の 3 つにグルーピングしてリスト化されています。

5.1 図書の情報表示

5.1.1 シリーズ・全集ものの 1 冊のとき

- 1) [簡略書誌一覧 (リスト)] の段階では、シリーズ名だけが表示されます。(図 9)
- 2) 特定の「シリーズ」を指定すると、そのシリーズ・全集 (集合書誌) を構成する個々の本が巻数順に表示されます。(図 10)
- 3) 特定の巻を指定すると、その巻の書誌所在情報が見られます。(図 5)

5.1.2 単行書 (それ 1 冊が独立して出版されたもの) のとき

「簡略書誌一覧」で該当のものを指定するとすぐに「単行書誌詳細表示」画面になります。(図 5)

図 9 [簡略書誌一覧でシリーズを指定]

詳細表示 F-1	検索語入力 F-4	検索終了 F-5	一覧: 次頁 F-6	一覧: 前頁 F-3	説明 HELP
簡略書誌一覧					
項番	資料種別	簡略書誌	該当件数: 4/4		
1	[シリーズ]	日本の文学 - 東京: 至文堂			
2	[図 書]	日本の文学 / 有精堂編集部編. - 東京: 有精堂出版, 1987.4-. - 冊; 22cm			
3	[図 書]	日本の文学 / 伊藤整編. - 東京: 毎日新聞社, 1951. - 4, 384, 8p; 19cm. - (毎			
4	[雑 誌]	日本の文学 = Studies in Japanese literature / 有精堂編集部. - 1集 (1992) = 通			

図 10 [シリーズの内容一覧]

単行詳細表示 f-1	前画面へ戻る f-4	検索終了 f-5	次の書誌 f-6	前の書誌 f-7	一覧: 次頁 f-8	一覧: 前頁 f-3	説明 HELP
集合書誌詳細表示							
書誌情報							書誌 I D : 10030092
日本の文学. - 東京 : 至文堂							
PID:	NCID:BN02353630	NBN:	GMD:	SMD:			
ISBN:	ISSN:	CNTRY: ja	YEAR:	-			
NDLCN:	LCCN:	ULPN:	REPRO:				
TITL: jpn	TXTL: jpn	ORGL:	BEPRO:				
PSTAT:	FREQ:	REGL:	TYPE:				

単行簡略書誌一覧			該当件数: 5/5
項番	巻次	内容 (単行書誌 I D)	
1	第2:	王朝の文学 / 岡一利, 松尾隆著 (20325988)	
2	第3:	中世の文学 / 市古貞次著 (20323538)	
3	第4:	元禄文芸復興 / 峰峻康隆, 郡司正勝著 (20325989)	
4	第5:	江戸市民文学の開花 / 峰峻康隆, 郡司正勝著 (20325990)	
5	第6, 7:	市民の文学 / 吉田精一著 (20325991)	

5.2 雑誌の情報表示

雑誌については、「全巻号情報(所蔵する全体の巻号数とその所蔵部局)」と、「製本情報(複数の号を製本した製本単位の所蔵情報)」、さらに「新着情報(出版・配布されたままの号単位の受入情報)」の3つの表示パターンがあります。

1) 雑誌書誌・所蔵全巻号情報表示

簡略書誌一覧から特定の「雑誌」を指定すると、まず、その雑誌の書誌と部局ごとの所蔵情報が表示されます。(図11)

図11 [雑誌の書誌と所蔵全巻号情報]

製本情報	新着受付情報	前面へ戻る	検索終了	次の書誌	前の書誌	一覧次頁	一覧前頁	説明
f-1	f-2	f-4	f-5	f-6	f-7	f-8	f-9	HELP
雑誌所蔵表示								
書誌情報								
The Journal of chemical physics. - Vol. 1, no. 1 (Jan. 1933)-. - New York : American Institute of Physics. 1933- AB:J. chem. phys. KT:The Journal of chemical physics VT:Chemical physics Frequency: Monthly, Jan. 1933-Dec. 1961; Semimonthly, Jan. 1962-Issues for Jan. 1956- 2 vols. a year								
書誌ID: 30006126								
所在情報一覧 該当件数: 12/15								
項番	所 在	年 次	備 考	所蔵年次/所蔵巻号				
1	本館・全学ハック	1963-1967		1966-1996				
2	本館書庫・洋雑誌	1940-1940						
3	理学部・中央書庫	1966-1996		44-99, 100(1-12), 101(1-8), 104(3-12)+				
4	理学部・保存庫2	1960-1965						
5	理・物理共通	1933-1980						
6	理・化学専攻共通	1996-1996						
7	理・高分子共通	1953-1990						
8	理・化学2共通	1958-1995						
9	医・図書館	1959-1959						
10	工・化学系図書	1937-1996						
11	工・応物図書	1965-1985						
12	水・書庫	1952-1952						

←所蔵部局を指定すると、
それに対応して所蔵巻号が
右側に表示されます。

図12 [雑誌の製本情報]

製本情報	資料番号	所 在	状 態	製本年次	巻 号
1	2070343222	理学部・中央書庫		1994	101(11-12)
2	2070343211	理学部・中央書庫		1994	101(9-10)
3	2070343200	理学部・中央書庫		1994	101(7-8)
4	2070343197	理学部・中央書庫		1994	101(5-6)
5	2070343186	理学部・中央書庫		1994	101(3-4)
6	2070343175	理学部・中央書庫		1994	101(1-2)
7	2070324888	理学部・中央書庫		1994	100(11-12)
8	2070324877	理学部・中央書庫		1994	100(9-10)
9	2070324866	理学部・中央書庫		1994	100(7-8)
10	2070324855	理学部・中央書庫		1994	100(5-6)
11	2070324844	理学部・中央書庫		1994	100(3-4)
12	2070324833	理学部・中央書庫		1994	100(1-2)

図13 [雑誌の新着情報]

受入情報一覧

[新着雑誌配架場所]
理・化学2共通

[製本後所在]
理学部・中央書庫

[製 本]
本製本

巻 号	通号	Part	備考	発行日	受入日	処 理
103	14			1995. 10. 8	1995. 10. 19	製本中
103	15			1995. 10. 15	1995. 11. 2	製本中
103	16			1995. 10. 22	1995. 11. 2	製本中
103	17			1995. 11. 1	1995. 11. 9	製本中
103	18			1995. 11. 8	1995. 11. 16	製本中
103	19			1995. 11. 15	1995. 11. 24	製本中
103	20			1995. 11. 22	1995. 12. 7	製本中
103	21			1995. 12. 1	1995. 12. 7	製本中
103	22			1995. 12. 8	1995. 12. 14	製本中
103	23			1995. 12. 15	1996. 1. 8	製本中
103	24			1995. 12. 22	1996. 1. 8	製本中

◆ 資料紹介 ◆

大型コレクション 『ナチズム研究』について

教育学部教授

小 出 達 夫

本コレクションは、ドイツの古書店 Georg-Sauer Antiquariat が集めた本格的なナチズム研究のコレクションであり、875件1,600点に及んでいる。時期的には、ワイマール共和制期、ナチス期、戦後の3期にわたり、主題では、思想・社会・文化・政治・法律・行政・経済・軍事・外交・司法・人種問題など多岐にわたる。ドイツ研究やファシズム研究に関心をもつ研究者にとり好個のコレクションである。特に大半はナチズム関係のオリジナル資料であるだけに、これによりナチズム研究の本格的な展開が期待される。内容は、以下の15のパートに分類される。以下順をおって紹介したい。

1) アドルフ・ヒトラー関係(64件)

ここには、『わが闘争』についての各版、特別豪華装丁版(モンスター版、40×52 cm, 11.5 kg)、翻訳本など9件が、またヒトラーの演説集、写真集(ヒトラーお抱えの写真家H・ホフマンのものを含む)や、23年の「ミュンヘン一揆」とその裁判記録など直接ヒトラーに関する記録のほか、ヒトラー像の形成には欠かせないヒトラー直近の部下による記録がある。M・ボルマン(ナチ党官房長)やR・ヘス(副総裁、副総統)、さらにはF・パーペン(1932・首相)に関する同時代の記録や戦後の研究書、およびヒトラーと時代を共にした様々な人の手になるヒトラーとの交流記録がそれである。これらの記録はヒトラーの伝記的研究にとり不可欠なものである。さらにこのパートには、33~40年の年報“Dokumente der Deutschen Politik”“Das Jahr”(写真集I~VII)があり、この期のヒトラーをめぐる事象を年誌的に見るのに便宜

である。

2) 反ヒトラー関係(118件)

このパートは「反ヒトラー」となっており、反ヒトラー派や亡命者による第3帝国批判の書籍類が入っているが、それ以外にも戦後の本格的なヒトラー研究を含む、ヒトラー伝記、写真記録、第3帝国の国制研究、ファシズム研究などが収められている。

ヒトラー伝記では、E・ドイヤーマン、J・C・フェスト、H・B・ギゼフィウス、S・ハフナー、W・マーザーなど戦後の研究書や、K・ハイデン、T・ホイスなど同時代人による伝記も入っている。ファシズム研究やナチ党組織・行政機構の研究としては、K・D・ブラッハー、M・プロシャート、W・ホーフアー、E・イエツケル、W・ラカー、G・モッセ、E・ノルテ、G・シュルツら戦後研究者の業績がここには相当収められている。

3) 「国会議事堂放火事件」関係(9件)

デイミトロフの拘留および裁判中の書簡・覚書・公判記録、事件後プラハからドイツに持ち込まれた非合法文書「褐色の書」(Braunbuch)や、のちにレーム肅正で処刑されたG・シュトラッサーの弟オットー・シュトラッサーが除名後スイスで出版した『ドイツのバルテルミの夜』など、同時期の記録が収められている。

4) 「レーム事件」関係(10件)

レーム肅正に関する戦後研究も数件入っているが、処刑されたE・レームおよびG・シュトラッサーの著作が2件入っている。また『ドイ

『ツ指導者事典 1934-1935』は第3帝国初期のナチ重要人物1700人のビオグラフィーを含む貴重な資料であるが、事典からはレーム事件で粛正された人物が抹消され空欄になっている。

5) 6) 「ナチズムのABC」および「ヒトラーとその側近たち」(129件)

側近としては、ナチ党の創設者で党綱領の作成者G・フェーダー、宣伝相で帝国文化院の創設者J・ゲーリングの著作・演説・論説、ナチスの基本文書『20世紀の神話』を書いた反ユダヤ主義のA・ローゼンベルクの著作、軍需相や戦時生産相で建築設計家・都市改造計画の中心人物A・シュペーアの戦後の著作、なかでもシュペーアの『日記』はナチ党员の手になる三大日記のひとつとして注目される。また、ヒトラー・ユーゲントの指導者B・シーラッハの戦前の著作・演説や彼の編集になる“Wille und Macht”誌なども入っている。なおヒトラーの側近中、ダレー、ゲーリング、ライ、シャハトなどはパート(9)および(10)にある。

なお、このパートには、ナチ党中央出版局発行の月刊誌『ナチズム月報』(30-44年, 163冊,) 全冊が揃っているし、党組織・SA・SSのハンドブック、ニュルンベルク党大会の記録など党関係の記録・資料・雑誌が見られる。さらには、演劇・詩・芸術・文学・建築・スポーツ・オリンピックなどの分野に関する同時代の文献・雑誌・記録・年報が含まれており、この領域でのナチスによる強制的画一化(Gleichshaltung)の過程や機構を見るのに不可欠の資料となっている。

7) ナチズムの精神諸科学 (38件)

ここには文化、哲学、歴史学、神学、外交政策論、国家論、人類学、人種民族論、大学論、地理学など諸科学のナチズム化を例示する文献・書誌が収められている。さらにナチズム期の文化・大学・歴史学に関する戦後研究も数点入っている。当時のこうした分野の状況を知る

のに参考になる。

8) ナチズム法曹関係 (132件)

戦後のものは13件だけで、ほとんどは戦前とくにナチス期のものである。この中には、ナチ党法律顧問、法アカデミー会長で、ニュルンベルク裁判で死刑になったH・フランクの著作、ベルリン民族裁判所長官でシオル兄妹裁判やヒトラー暗殺事件裁判の指揮をしたR・フライスラーのもの、フライスラーと同様刑事手続きの「統一モデル」を推進したH・ヘンケル、E・シュヴィング、K・ジーゲルトなどの文献、基本権批判やナチス行政法の形成者O・ケルロイターの著作・論説、カント個人主義法論を否定したK・ラレンツ、ナチズム行政法のT・マウンツ、カール・シュミットの著作・論説、など第3帝国の法学・司法・法哲学を検証するのに不可欠の重要な材料が相当豊富に入っている。個別に見ると以上の領域のほか、ナチズム国家論、憲法・国法論、革命と法、公務員法、民法、労働法、経済法、地方自治法などの領域を含み、そのほかにドイツ法アカデミーの雑誌(H・フランク編集)が揃っている。

9) ナチズムの経済と社会 (80件)

ナチ農民団の創設者で食糧農業相W・ダレー、ナチ党組織指導者でドイツ労働戦線の指導者かつ歓喜力行団や「騎士団の城」の創設者R・ライ、ドイツ国立銀行総裁で経済相H・シャハト、大蔵省書記官F・ラインハルトなどの著作・論説・演説などが含まれている。以上のほか、労働組織・労働政策、経済・通商・工業政策、農民・農業政策、社会政策、財政政策、戦時経済政策、各種統計に関するナチス期の文献・資料などが入っている。

10) ヒトラーと国防軍 (39件)

39件のうち17件が戦前の資料で、「コンドル兵団」(スペイン内戦介入の担い手)の報告書『ドイツ人はスペインで闘う』のほか、第2次大戦

中の前線兵士向けの雑誌“Deutsche We-
gleiter”, “Signal” など貴重な資料のほか、H・
ゲーリング(国家元帥, 帝国国防会議議長)に
関する戦前・戦後の文献・資料が入っている。
戦後のものは、独ソ戦をはじめ、ポーランド、
オーストリア、ヴァルカンに対する外交・戦争
政策に関するものや、ナチスドイツ諜報機関に
関する研究書が多い。

11) ナチの反ユダヤ主義政策(65件)

戦後のもの12件を含むが、それ以外のほとん
どはワイマール期から第3帝国にかけてのナチ
スによる反ユダヤ主義の宣伝文書・パンフレッ
ト・書籍である。

12) 強制収容所関係(126件)

戦中のもの12件、戦後直後(45-49)のもの
36件、それ以降のもの70件になる。戦中のもの
は亡命者により出版されたものである。戦後直
後の資料には強制収容所の体験記録が多い。自
力解放したブーヘンヴァルト関係が9件と圧倒
的に多く、続いてダッハウ、アウシュヴィッツ、

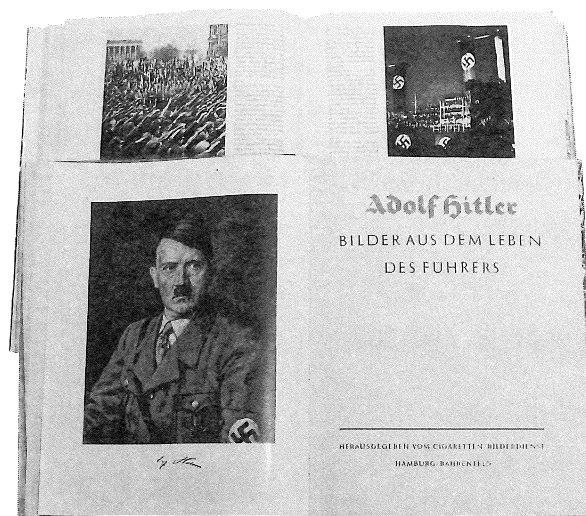
ザクセンハウゼンその他の記録が入っている。
婦人強制収容所のラーベンスブリュックの記録
もある。50年以降の研究書・文献ではアウシュ
ヴィッツが14件と最も多く、ついでマウトハウ
ゼン、ブーヘンヴァルト各4件その他となる。

13) 抵抗運動, 戦犯, ニュルンベル ク裁判, アイヒマン裁判(46件)

ほとんど戦後刊行されたものである。抵抗運
動関係は、「白バラ運動」、ヒトラー暗殺事件、
ボンヘーファーの教会闘争、などでそれほど多
くはない。ニュルンベルク国際軍事法廷と戦犯
に関するものは、個別法廷のケースを含め11
件、アイヒマン裁判関係は7件(H・アレント
関連2件)、戦後の非ナチ化政策に関するもの3
件などが含まれる。

14) 15) ヒトラー・ゲッベルス・シー ラハの手紙(10件)その他(7件)

後記: 本コレクションは、田口 晃教授(法)、
今井弘道教授(法)、加来祥男教授(経)と共同
で推薦したものである。(こいで たつお)



教官著作寄贈図書

平成 7.12.1～8.2.29

[本 館]

(法 学 部)

長谷川 晃 解釈と法思考 日本評論社 1996
 — リーガル・マインドの哲学のために

(経 済 学 部)

浜田 康行 日本のベンチャーキャピタル 日本経済新聞社 1996

(農学部附属演習林)

滝川 貞夫 (共著) 図説実用樹木学 朝倉書店 1993

(スラブ研究センター)

望月喜一, 田畑伸一郎, 山村理人 (共編) 村上 隆 (共著)
 スラブの経済 (講座スラブの世界 第6巻) 弘文堂 1995

[北分館]

(農学部附属演習林)

滝川 貞夫 (共著) 図説実用樹木学 朝倉書店 1993

(経 済 学 部)

浜田 康行 日本のベンチャーキャピタル 日本経済新聞社 1996

(言語文化部)

中野美代子 (解説)	キルヒャーの世界図鑑	工作舎	1994
〃	スクリブル	筑摩書房	1995
〃	鮫人	日本文芸社	1990
〃 (共訳)	中国山水画の誕生	青土社	1995
〃	辺境の風景	北大図書刊行会	1979
〃 (訳)	龍とドラゴン	平凡社	1982
〃	敦煌ものがたり	中央公論社	1996
〃	仙界とポルノグラフィ	河出書房新社	1995
〃	契丹伝奇集	河出書房新社	1995
〃	砂漠に埋もれた文字	筑摩書房	1994
〃	西遊記の秘密	ベネッセ コーポレーション	1994
〃	孫悟空の誕生	福武書店	1987
〃	カニバリズム論	福武書店	1987
〃	中国の青い鳥	平凡社	1994
〃	西遊記 (四) ～(八)	岩波書店	1990～95
〃	中国的妖怪	黄河文芸出版社	1989
〃	双小説看中国人的思考様式	北京十月文芸出版社	1989
〃	孫悟空との対話	NHK	1994

平成7年度特別図書購入費で購入した資料

- ・文章倶楽部(大正5-昭和4)
CD-ROM版 付録:総目次・索引
純文学系の重要な小説・詩・評論・海外の文学動向が数多く載せられているとともに、当時の高校・大学向けの文章指導書、投稿誌としての性格を併せもつ雑誌。大衆文学の台頭、出版者の戦略等、文学社会学的面の研究にも貴重な資料。
- ・Descriptive Grammars(シリーズ記述文法)
1986-1993 11 Vols.
世界の諸言語(マオリ、韓国、カタロニア、パンジャブ語他)の記述文法。
- ・ARION: A Journal of Humanities and Classics(西洋古典研究雑誌:アリオン)
Vol.1-9(1962-70), New: Vol.1-3(1973-76)
西洋古典学、西洋史学(古代)、古代文学、言語学関係のアメリカ中東部の投稿者を中心とした学術雑誌。
- ・Cambridge studies in Social and Cultural Anthropology(ケンブリッジ社会・文化人類学研究)
12冊
社会人類学・文化人類学の理論的研究、及び地域研究のモノグラフ・シリーズ。
- ・GHQ 指令総集成 — SCAPIN 全15巻
SCAPIN(整理番号、タイトル、解題、発出部局年月日)2204の完訳と全指令の原文をすべて収録した占領史研究の重要な基礎資料。
- ・教育時論 復刻版
Vol.1286-1357(大正10-11年)
明治18年~昭和9年にわたる約半世紀の間、旬刊誌として継続刊行された近・現代教育ジャーナリズムの第一級資料。
- ・東京日日新聞 復刻縮刷版
Vol.11-18(1218-1826号、明治9-10年)
東京で発行された最初の日刊新聞の復刻版。明治期の政治・経済・社会等の多分野にわたる情報を掲載する第一級の資料。
- ・200 Jahre Allgemeines Landrecht für die Preussischen Staaten(プロイセン・ラント法二百年記念出版叢書)3タイトル
近代日本の法制度のひな型となった、ドイツ=プロイセンの法制度「プロイセン・ラント法」をその起草過程にまで遡って検討したシリーズ。
- ・The Papers of Woodrow Wilson Vol. 44-69(1984-1993)
アメリカ合衆国第28代大統領ウッドロー・ウィルソンの文書全集。著述、手紙、演説、新聞・雑誌記事等を網羅的に集めたもの。
- ・民事訴訟法:明治36年草案
松本博之他編著 全4巻
民事訴訟法明治36年草案について内容を詳細に説明すると共に、前後の経過を解説したもの。
- ・日本占領・外交関係資料集第二期
荒敬編集・解題 全12巻
占領期(1945~1952)に、地方における占領当局との連絡機関として設置された終戦連絡(後の連絡調整)地方事務局等の関係資料を収録した資料集。軍政下の地方政治・経済・社会分析に不可欠な基本文献。
- ・Land and Water Law Review(ワイオミング大学土地法・水法評論)
Vol.1-29(1966-94)
アメリカの土地法、水法、環境法研究で知られるワイオミング大学ロースクールが刊行する法律評論の一つ。
- ・ドイツ民事訴訟法編纂史料集成
第II期:プロイセン 全7点
1877年成立のドイツ民事訴訟法に先立ってドイツ諸領邦で編纂された、民訴法典とその草案、注釈書等を収録した資料集。第I期:バイエルン(購入済)。第II期:プロイセン。
- ・Bertil Ohlin: Critical Assessments(B.G.オリーン:批判的評価)4 Vols.
国際貿易学、現代マクロ経済学に貢献した北欧学派を代表する経済学者のB.G.オリーン。彼の生涯、経済学史上の位置、経済分析への貢献等を研究した論文の集成。
- ・Economie et Comptabilite(フランス公認会計士年報)Vol.41-47(1987-1993)
フランス公認会計士協会が発行する、ECにおける会計制度、とりわけフランスの会計制度の実態を探る上で欠かせない貴重な研究文献。
- ・Statistical Releases(金融経済統計集)
1919-1976
Microfilm. 36 reels with Guide and Index
米国連邦準備制度理事会が保有する金融関係の統計データを収録した統計資料集。理事会及び各連邦準備銀行が集めた統計ばかりではなく、連邦預金保険会社や外務省等各種機関が収集して分析整理した統計をも大量に含む。
- ・16世紀世界都市図集成 全2巻
16世紀から17世紀初頭にかけて、G.ブラウンとF.ホーヘンベルフによって編纂された、空前の大都市図冊“Civitates Orbis Terrarum”の復刻日本版。総図数362、全480都市を網羅する。

アメリカ合衆国東部の図書館を訪ねて

情報システム課学術情報掛長

菅 原 英 一

1. はじめに

平成7年度の北海道大学国際交流事業基金により、平成7年10月1日から10月14日までの2週間、アメリカ合衆国東部の図書館を見る機会を得た。

今回の訪問先は以下のとおりである。

- ① 米国議会図書館 (ワシントン DC)
- ② メリーランド大学図書館 (ワシントン DC 近郊)
- ③ シカゴ大学図書館 (シカゴ)
- ④ ニューヨーク公共図書館 (ニューヨーク)

アメリカ合衆国の図書館については、それまで図書館学の文献などを通しての知識しかなく、その実際の姿を出来るだけ目にやきつけたい、と多少気負いながら、10月1日成田を飛び立った。

2. 米国議会図書館

ワシントン DC での最初の訪問先である米国議会図書館では、まず、James H. Billington 館長自らが中心となって推進している「電子図書館プロジェクト」の展示室 (Visitors' Center) でマルチメディア・データベースを含む電子図書館化の現状を見学することになった。Visitors' Center は米国議会図書館三館のうちのマジソン館1階中央部にあり、全部で十数台の端末がテーマごとに数台ずつ配置されていた。「National Digital Library」と位置付けされた「電子図書館プロジェクト」のデモのテーマは次の6つである。

1) LOCIS (Library of Congress Information System)

4,000 万件をこえる米国議会図書館の目録

情報で、図書・雑誌・楽譜・写本・視聴覚資料その他の情報が検索できる。

2) WWW

主要な展示会などの画像情報を含んだ情報を、HTML 形式でテキスト及びイメージを編集して提供する。ジェファソン館で開催されていた「Creating French Culture」という展示会のデータを見て概要を知ったあと、展示会そのものを見学してより印象を深めることが出来た。

3) American Memory

Mathew Brady 南北戦争コレクションからの貴重な写真をはじめとして、絵はがき、レコード、文書など約 20 万件の資料が電子化された、アメリカの歴史に関する資料の動画像・音声を含んだマルチメディア・データベース。

4) LCMARVEL (Library of Congress Machine Assisted Realization of the Virtual Electronic Library)

米国議会図書館の行事予定、「Library of Congress Information Bulletin」のフル・テキストなど米国議会図書館に関する種々多様な電子情報を提供する。

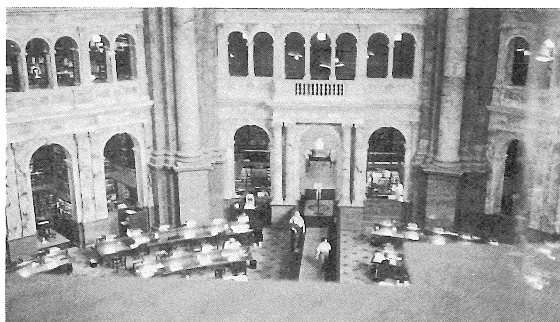
5) Copyright Imaging System

デジタル化された著作権情報の提供。
キー・ワードなどによる検索も可能である。

6) CD-ROM Network

商用のものと政府が刊行する CD-ROM データベースの提供。

このように様々な側面からの電子図書館化が行われている。そして、他館との協力のもとではあるが、西暦 2000 年までに 500 万件の文献の全文データベース化を行う計画である、との



米国議会図書館中央閲覧室

ことであった。

Visitors' Center でのデモ内容の多くは現在インターネットを通して見ることができる。利用者にとってはそれで充分なのかも知れない。そして、米国議会図書館のホームページも北大図書館のホームページもインターネット上のアドレスとしては等価なアクセス対象として存在しているのかも知れない。ただ、米国議会図書館の先進性や先端性から多くの恩恵と影響を受けてきた側にとって、作成現場などホームページの裏側での活動こそがなにごとかであるはずだと思った。私はそのごく一部を見てきたに過ぎないが、それでも、人的・経済的資源のすごさをうかがい知ることができ、目的を指向する徹底性に目を見張るばかりであった。

例えば、M.K. バックランドの『図書館サービスの再構築』（勁草書房、1994 年刊）は次の言葉で締めくくられている。

「これまで図書館のサービスは身近な図書館の目録や蔵書によって規定され、図書館サービスに地域格差が生じていた。しかし、図書館サービスの制約条件は今まさに変わりつつある。これは紙や図書館の蔵書をなくそうと言うのではない。誰もそのようなことを言っていない。これらの変化によってわれわれは図書館の使命と役割、サービス提供の手段についても一度考え直すことを求められている。過去 100 年の間で初めて、われわれは図書館サービスを再構築するという、困難ではあっても、またとない素晴らしい機会に今、直面しているのである。」

電子図書館化はこれからの私たち図書館員の

活動を大きく左右する重要な流れであることは誰も否定しないと思われる。そして、それは紙メディアを通した図書館サービスとの融合のなかから実現されていくであろうことも確かであると思われる。電子図書館化の背景には伝統的図書館活動の膨大な蓄積がある。米国議会図書館での電子図書館化はあたかも摂理のように進行しているのだ、と感じた。

3. メリーランド大学図書館

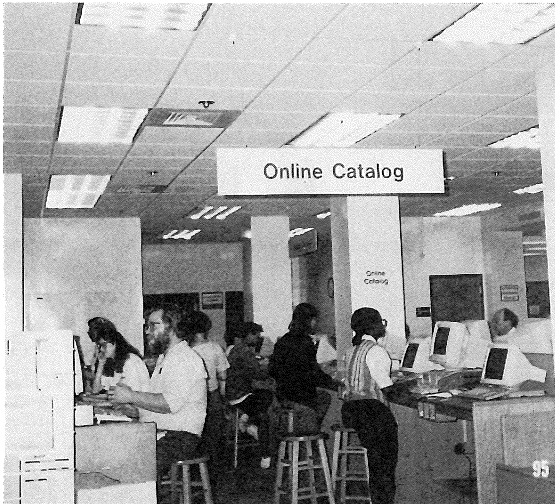
当日は朝から強い雨で、地下鉄をあきらめ、ホテルからタクシーで 30 分程かけてワシントン DC 近郊のメリーランド州カレッジ・パークにあるメリーランド大学図書館（マッケルディン図書館）に到着した。

マッケルディン図書館では、戦後の日本駐留米軍による検閲資料（図書、雑誌、新聞等）の収集で有名なプランゲ文庫、そして、メリーランド大学図書館全体のコンピュータ・システムを統括する情報技術部を訪問した。

プランゲ文庫では、ボランティアの学生を含む約 20 名のスタッフが目録業務や資料の補修、装備などにあたっていた。また、劣化の進んだ原文献のマイクロ化も同時に行われていた。

“Victor” と命名されているメリーランド大学の OPAC からは、同大学図書館の総合目録や全米の大学の目録のほかに、ERIC や UnCover などが簡単に検索可能となっている。

“Victor” を含む University of Maryland System はメリーランド州の他大学や公共図書館を含んだ広域のシステムである。また、マッケルディン図書館は、SURAnet (Southeast Universities Research Association network) というアメリカ東部 14 州を結ぶネットワークのノード図書館にもなっている。このネットワークには大学図書館だけではなく、公共図書館や政府機関も接続しており、アメリカ図書館のネットワーク化において館種の違いはそれほど問題ではないことが示されていて興味深いものがあつた。



マッケルディン図書館目録室

4. シカゴ大学図書館

シカゴ大学は学生1万人のうち大学院生が7千人というアメリカ有数の大学院大学である。シカゴ大学図書館（リーゲンスタイン図書館）では、研究図書館の使命に適合する図書館資料の収集方針及び他館との協力関係の押し進めていくことの重要性、或いは、図書館の機能の変化に対応する形での図書館サービスの再構成等について有益な助言を得ることが出来た。そのなかで、「アメリカの大学図書館では最近、経営という観点が重要視されてきており、Library school 出身の人より Business school 出身の人が要職を占める傾向がでてきている。」という、東アジア図書館日本部長奥泉栄三郎氏の言葉が印象に残った。

5. ニューヨーク公共図書館

ニューヨーク公共図書館（中央研究図書館）はマンハッタンの五番街に面している。公共図書館とは言っても、4つの研究図書館（閲覧のみ）と82の支部図書館（貸出可）を擁し、職員数は全体で約2,500人にのぼる大図書館である。蔵書数も図書だけで約1千8百万冊と北大全体の蔵書数の6倍以上である。一般市民だけではなく、大学の研究者や学生の利用にも耐え得る蔵書構築やサービスの展開に図書館員自身

が大きな自負を持っていることが感じられた。

6. おわりに

それぞれ性格の異なる図書館のデータベース構築或いはサービスの現状の視察から、どの図書館においても、「情報」の収集（構築）及び提供に対して、並々ならぬ自信と洞察力を持っていることを認識することが出来た。それは、今回紹介した図書館以外の、例えば、ジョージタウン大学図書館（ワシントン DC）やシカゴ公共図書館（シカゴ）などについても同様に言えることである。

大学図書館の主たる目的が教育・研究の支援にあることは言うまでもない。このことが広い展望の中で実現されていく過程で、アメリカの図書館のデータベース構築等の進展状況は、現在なお本学図書館が参照して得るものがある大きな現実である、と感じた。

アメリカの図書館を初めて訪れた多くの人が感ずるに違いないと思われる、日米の相違、あるいは、単なる外国体験に還元されない核のようなものの存在は何に由来するのだろうか、ということに脳裏を埋め尽くされた状態で、私は、10月13日ニューヨークのJFK空港から帰国の途についた。

最後になりましたが、今回の出張にあたって、本部事務局の皆様をはじめ、附属図書館の皆様から多大なご配慮をいただき、お礼申し上げます。
(すがわら えいいち)

北大図書館研修記

函館工業高等専門学校 庶務課図書係

福 村 美保子

私は、平成7年10月から平成8年2月末までの間、高専図書館業務改善の参考とするため、北海道大学附属図書館に併任いたしました。

10月1日に辞令を受けたのち、所属掛である情報管理課図書受入掛長から北大図書館の概要と今後の業務日程を伺いました。10月は情報サービス課、11月は情報管理課の図書受入掛、12月～2月は情報システム課で、各課でそれぞれ予定を組んでくださり、また、この間、いくつかの学部図書室の見学も入れてくださいました。そして、毎週報告を提出することになりました。

情報サービス課は、資料サービス掛で3週間、参考調査掛、相互利用掛各1週間です。さっそくエプロンを付けてカウンターに座ることになり、書庫内の説明と貸出、返却の端末操作を教わりました。資料サービス掛では当番表により、カウンター当番と配架当番があります。毎日午前中は閲覧室の返却図書の配架、午後はカウンターに座りました。カウンターにいと利用者からは職員の経験の多さはわかりませんから、手が空いている私のところへも来ます。利用者に不安を与えないようにこやかに対応するものの、経験不足は補えず、周りの人に聞いたり教えてもらいながら対応しました。一番困りましたのは学外者への対応で、学外者の区分は15もあり、貸出条件等もそれぞれ異なりますから注意が必要です。北大は札幌駅から徒歩5分位と交通の便がいいので、一般市民の方も気軽に立ち寄られるようです。北大は一部開架式で書庫出納もあります。6層の積層書庫で利用の多いものはカウンター出入口から近いところにありますが、300(DDC)代が別扱いになっていることと一部NDC分類のものがあつたりで、書庫

の出入口の案内を確認してから走ります。分類番号はコンマ以下6ケタまでとっているのもありますから、正しく配架されていれば探すのは簡単ですが、資料の数が約100万冊とのことから、書架を特定するのに手間取りました。

参考調査掛では、CD-ROMによる検索、NACSIS-IRについて教えていただきましたが、この時点ではOPACの利用方法もおぼつかなかったもので、こわごわキーボードにさわっていました。

相互利用掛は日頃から文献複写でお世話になっているのですが、函館高専は依頼のみですしまだ複写依頼票で行なっているのでILLについての知識がなく、今回北大の受付け数の多さに驚き、簡単に依頼と受付けができることは便利ですが、これが複写と現物貸借件数の増大につながっていることを実感しました。依頼館はたかが1件ですが、受付け館はされど1件で端末に向かって依頼しても、該当文献を書庫から探して複写したり、包装して郵送するのは職員ですから大変な仕事量です。高専のように資料の数が少ないところはお願いするばかりですが、蔵書の多い図書館ほど受付けが増え、早晚お手上げになるのではと危惧されます。受付けた文献を一生懸命複写して、担当者の苦労を知りました。

11月は情報管理課図書受入掛で、まず、発注カードをOPACと発注済みカードで重複調査して、重複してなければ書店に発注します。納入された図書の検収、支払い、資料番号を付与すると分類は目録情報掛です。

12月から情報システム課で、学術情報掛と目録情報掛を約1カ月半づつ、情報処理掛を1日

勤務しました。

学術情報掛では日々納入される雑誌の受け付けと配架、製本する雑誌のリストを作成して業者に依頼するまでを行ないました。外国雑誌の場合、FD 受入が多くなってきているので処理は早くなりましたから利用者への提供もスムーズに行なわれます。「学術雑誌総合目録・和文編」の改訂のための作業もありました。

目録情報掛では目録作成を行ないましたが、学情センターからの取込で行なうので、本で勉強した分類法の出番はあまりありません。目録規則、記述文法、コーディングマニュアルの知識と書誌構造の理解が必要でした。洋書特に英語圏以外のものについて書誌を同定するのに苦労しました。さらに、北大は DDC 採用なので和書については分類を付けにくいところがあります。

今年度から UNIX による図書館システムを導入したので見学者が多いうえ、日々の業務に追われている情報処理掛なので、どうして 24 時間利用できるの？ バックアップはとらなくてもだいじょうぶなの？と不思議だったけれど聞けなかったことを教えていただきました。また、UNIX のコマンド一覧を作っていただいたり、ホームページの作成もさせていただきました。

この他に医学部、理学部、農学部、工学部の各図書室を訪ね、また、数学科図書室、物理学科図書室、農業経済学科図書室、森林科学科図書室、原子工学科図書室、材料化学系図書室と各学部の特徴ある学科図書室も視察しました。

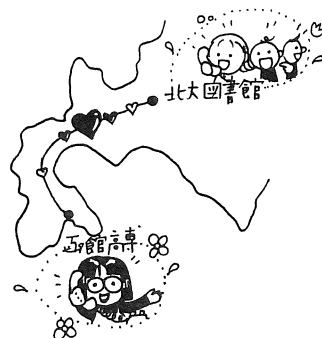
このように、普通は数年ごとに一つの掛を経験していく業務を、私は駆け足で全掛を経験させていただきました。そして、利用者に対する図書館のサービスとは、求められた情報を速やかに提供することであると改めて教えられました。速やかということは現代の情報社会ではコンピュータ機器、情報通信網の利用なしでは考えられず、これまでの紙に書かれた書物や

カードを対象にしていた時代とは異なった図書館職員が求められています。図書館職員とは？ 図書館司書とは？ これからどうあるべきなのかと考えさせられました。若手の職員で毎週勉強会を開いているということでしたので、一度聞いてみたかったと思っています。

5 カ月過ぎて、大学の図書館は、情報を求める利用者へ迅速に対応できる環境を整えておりかつ、さらに高度な情報提供を目指していて、学術研究に貢献している、そして期待されているということを感じました。高専はと顧みると、必ずしも期待に沿える現状ではありません。これからは自館の資料充実はもとよりですが、他高専との協力、学情センターと接続した情報提供ができる方向にもって行くことからまずは始めなければその先へは進めないと思います。

長いようで短かった日々が終わりました。毎朝お掃除をしながら学内のことを教えてくださった方、顔と名前がわかるようにと似顔絵を描いてくださった方、書庫で図書を探していると「わかりますか？」と声をかけてくださった方々、机が変わるたびに端末を移動してくださった方々、UNIX がわかるようにとご心配いただいたり、「どうですか？」といつも声をかけてくださった課長さんたち、予定を立ててくださった掛長さんたち、そして担当の業務を教えてくださいくださった皆さんありがとうございました。そして、私の業務を引受けてくださった函館の皆さん、ありがとうございました。

(ふくむら みほこ)



研修・講習会等 (7.12.1~8.3.31)

【学 外】

- 平成7年度情報ネットワーク担当職員研修
〈平成7年12月4日(月)~12月8日(金)〉
(場所:東京教育センター,主催:学術情報センター)
受講者:松尾博朋(情報システム課情報処理掛)
- 平成7年度国立大学図書館協議会インター
ネット講習会〈平成7年12月6日(水)~12月
7日(木)〉(場所,主催:学術情報センター)
受講者:岸本一志(情報システム課目録情報
掛)

会議 (7.12.1~8.3.31)

【学 外】

- 平成7年度国立大学附属図書館事務部長会議
〈平成8年1月18日(木)〉

当番校:一橋大学

〈出席者:事務部長 遠藤勝久〉

協議事項

- 1) 総合学術情報サービスの実施とその推進体制について
- 2) 図書館と(総合)情報処理センター等の協力について
- 3) 図書館機能の高度化に対応した組織の改組について
- 4) CD-ROM サーバーによるデータベースサービスの在り方について
- 5) インターネットを利用した情報発信システムの運用上の諸問題について
- 6) 図書館運営の中枢を担うポスト(図書館専門員を含む。)の人事における広域交流の促進について
- 7) 教養部改組に伴う学部学生用図書館について
- 8) 研究図書館機能の強化のあり方について

- 9) 協議題の提出について

- 10) 国立大学附属図書館事務部長会議について

【学 内】

- 北海道地区大学図書館協議会第1回幹事館会議
〈平成8年1月25日(木)〉

議 題

- 1) 平成7年度の事業について
- 2) 第39回研究集会及び第46回総会について
- 3) 幹事館, 監査館及び当番館の予定一覧(案)について

報告事項

- 1) 北海道図書館連絡会議幹事会について
- 2) 第38回研究集会の記録誌について
- 3) テープ起こし謝金の支出について

- 図書担当掛長会議

〈平成8年1月26日(金)〉

議 事

- 1) カード抜去用検索プログラムについて
- 2) WWW サーバーの運用について
- 3) 蔵書検索システムの高速化等について
- 4) 1996年版外国雑誌の予約契約について
- 5) 平成7年度の図書資料(大型コレクション)及び自然科学系図書資料について

- 北海道地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議

協 議 題

- 1) 第43回国立大学図書館協議会総会について
- 2) 第28回国立大学図書館協議会北海道地区協議会について
- 3) 電子図書館へのシフトについて
- 4) G4ファックスの機種更新について
- 5) ILLサービスの円滑な展開について
- 6) 地域における館種を超えた図書館の相互協力について

報告事項

- 1) 国立大学図書館協議会理事会について
- 2) 第28回国立七大学附属図書館部課長会議について
- 3) 第69次国立七大学附属図書館協議会につ

いて

○第 39 回北海道地区大学図書館職員研究集会
企画委員会（第 1 回）

〈平成 8 年 2 月 28 日(水)〉

○第 162 回図書館委員会

〈平成 8 年 3 月 14 日(木)〉

議 題

- 1) 平成 9 年度概算要求事項について
- 2) 北海道大学附属図書館規程（案）について
- 3) CAonCD の導入について

報告事項

- 1) 情報ターミナルコーナーの開設について

○図書担当掛長会議

〈平成 8 年 3 月 19 日(火)〉

議 事

- 1) 第 162 回図書館委員会について
- 2) 図書館システムの改良について
- 3) 図書ラベルの自動印字機能について
- 4) G 4 ファックス機種更新について

北海道大学附属図書館報「楡蔭」(ゆいん) 通号 95 号

ホームページ：WWW(<http://ambitious.lib.hokudai.ac.jp>)

発行人 附属図書館事務部長 遠藤 勝久

編集事務 鳥屋部順・金子 敏・佐藤清一・佐藤依理子・田中健太郎・中野真弓美・木下 彰・
高野直樹・吉田恭子・片桐和子・土田健治・結城憲司・高塚 恵

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北 8 条西 5 丁目
TEL 011-706-2967, FAX 011-747-2855

印刷所 (株)アイワード

